萩圖書館

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 ◎（毎月一回十五日發行）

阿武郡報

第三十五號

大正八年六月十四日印刷
大正八年六月十五日發行
發行所 山口縣阿武郡役所
山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷
印刷所 萩 響 海 館

目次

□民力涵養
□庶務
一、大正八年前期賦税戸數割ご同附加税納税狀況
□學事
一、學事視察報告
□産業
一、見島避難港修築
□兵事
一、徴兵檢査
一、海軍簡閲點呼
一、軍隊慰問
一、海事思想鼓吹活動寫眞狀況

民力涵養

□民力涵養の眞義

内務大臣床次竹二郎閣下

一、特に感を深くせる三事實

今回の大戰以來、各國民心の緊張して居る狀況、並に其努力の偉大なるを見ては、如何にも快く感ずると同時に、我々日本國民も亦、大に覺悟せねばならぬことを痛切に感ずるのである。將に宇内一新せんとする今日に當り、之に對應するの方策を講じて、依て以て彌々我國運

を伸張せねばならぬといふことは、恐らく何人も同感であらうと考へる。斯る諸事一新せる間に於て、予が特に感を深うした事實が三つある。

其一は別段新しい事ではないが、國の富、國の强さといふものは、如何にも國民各個の力の集積である。國民各自の性格を十分訓練し發達せしめなければ、國は强くならないといふことである。

次に感じたのは、國家に對する觀念が非常に强くなつた事である。歐洲大戰の開かれた當時、佛國大統領ポアンカレー氏が出した布告の中に「今や吾々は國家の大事に逢遇して居る。一個人の生命財産を犧牲に供して起つべき秋は今である。」といふやうな言葉であつたと記憶するが、此觀念は終始一貫して今日に及んだのである。而も之は獨り佛國のみではなく、各國皆其通りであつて、戰爭中にも同盟罷業を起したけれども、斯ういふことはお互の申合せでもあつても、國家の大事は忘れてはならぬと言つて、祖國に毫も支障なからしめたのである。國あつての生命財産である。自由平等も絶對の自由平等ではない、國家あつて初めて眞の自由平等が得られることを感知したのであらうと思ふが、國家觀念は非常に强くあつた樣に考へる。

今一つは正義公道を重んずる精神で、苟くも正義公道を重んじなければ、國際聯盟の力を以て之を懲すといふ觀念を生じた事である。

二、戰後の日本と國民の使命

私は此三つの事を切に感じたのであるが、國家といふものは固より一樣でない、强弱大小の相違があり、又政體も異つて居る。恰も人間に老若、男女の別があり、其體質にも健否の差があるが如くである。而して是等のものが各々其特徵を發揮し、其能を盡す上に於ては、各自自尊の心がなければならぬ、自尊の心と共に社會共存の理が働き、兩々相俟つて社會は向上するのである。是と同じく各特長を有せる國家が其使命を發揮するのみならず、正義公道を尊重するとに依つて、眞に世界の平和が維持され、文化が發達するのであらうと思ふ。されば個人としては各々其性を盡し、能を揮ひ、國民としては自尊心を有たねばならぬ米國人は米國を以て世界第一流の國であると信じ、英國人は英國を以て世界の覇王であるといふ自負心をもつて居る此はさうあるべき筈である。

此意味に於て我邦は三千年の古き歷史を有し、萬世一系、世界無比の　皇統を戴き、建國の初より道義を以て一貫し、三種の神器卽ち三德を具へて居る國柄であるか

ら、其國體たる實に堂々たるもので、決して新らしく力を以て成つた國の人々が考へ得る樣なものではない。如何に世運が推移しても、此點に於て我邦は實に立派なものであつて、お互に日本人として世界に立つに當り、十分に自負してよい譯である。又我邦現在の地位より考へても、世界の大戰亂に處し、東洋の平和を維持して居るのは全く我邦の力である。此間に於ける日本人の努力は容易ならぬものである。又東洋の先進國として、東西文化の要樞に位し、世界の文運に貢獻すべき絶好の地位を占めて居るのであるから、日本人たる事を最も愉快に感ずる、形に於ては和服が洋服となり、下駄が靴となり、チョン髷が散髮になるなど、昔と今とは餘程變つて居るが、併し此皮膚の黃色を變へることは出來ぬ、お互の血管に流れて居る血液を變へる事は出來ない、況んや精神までも化することは到底出來ないのである。國家としても種々の相違がある、相違のある所に自然の妙味があり互の長所を發揮する所に吾人の使命もあると感ずるのである。

されば是等の觀念を彌々發揮し、國民としても亦個人としても、固陋に流れず、偏狹に失せず、採るべきは採り、捨つべきは捨て、所謂日に新なる修養を積み、或は彼此共濟の實を擧げ、或は勤儉力行の美風を興し以て、十分人格の向上修養に努ひる事あらば、今後日本國民として世界に處して行くに、最も良しからうと信ずるのである。

而して今後爲すべき事も多々あらうと思ふが、先づ前述の三點に深く感ずる所があつたので、民力涵養の方面より着眼し、曩の訓令の中に五大要綱を擧げて盡して見たいと考へたのである。尙此の事は地方長官に對して努力を求むるのみならず、廣く天下同感の士に訴へて、共に共に盡したいと思ふ。諸君も各般の施設及びその實行方法に就て工夫を凝し、此方針の下に盡瘁されんことを希望する。

9
大正8.6.15

中川本縣知事は本月十五日縣下各郡市町村長、各種團体代表者及地方有力者を山口中學校内に於て開催の戰後民力涵養講演會に出席ぜしめ講演終了後内務大臣訓令ノ五大要綱に對し左記腰書の如く本縣に於て施設すべき要目を決定して之れが實行を促されたり

一、立國ノ大義ヲ闡明シ國體ノ精華ヲ發揚シテ健全ナル國家觀念ヲ養成スルコト

（一）教育勅語戊申詔書ノ御趣旨ヲ一層徹底セシムルノ方法ヲ講スルコト

（二）建國ノ歴史ヲ明カニシ特ニ防長ノ史蹟ニ鑑ミ忠君愛國ノ精神ヲ皷吹スルコト

（三）祝日及大祭日ノ意義ヲ明カニシ之カ尊重ニ努ムルコト

（四）神社ノ觀念竝祭典ノ意義ヲ明カニシ崇敬ノ實ヲ擧ルニ努ムルコト

（五）祖先崇敬ノ實ヲ擧ルニ努ムルコト

二、立憲ノ思想ヲ明瞭ニシ自治ノ觀念ヲ陶冶シテ公共心ヲ涵養シ犧牲ノ精神ヲ旺盛ナラシムルコト

（一）憲法發布ノ由來及其ノ精神ヲ明カニシ國民ノ公務ヲ十分會得セシムルニ努ムルコト

（二）自治制ノ要義ヲ了得セシメ部落觀念ヲ打破シ犧牲的精神ヲ發揮シテ團體協同ノ實ヲ擧ルニ努ムルコト

（三）地方ノ公職ニ在ル者及有力者ハ公正ナル態度ヲ以テ率先地方公共ノ爲メニ竭スコト

（四）法令ヲ周知セシムルノ方法ヲ講スルコト

（五）所屬自治體ノ情勢ヲ了解セシムルノ方法ヲ講スルコト

（六）公民教育ノ普及徹底ニ努ムルコト

三、世界ノ大勢ニ順應シテ鋭意日新ノ修養ヲ積マシムルコト

（一）世界ニ於ケル帝國ノ地位ヲ了解セシメ國民的自覺ヲ促スニ努ムルコト

（二）外來ノ思想ヲ選擇咀嚼シテ國民性ノ陶冶指導ニ努ムルコト

（三）品性ノ修養ヲ促シ科學ノ研究應用ヲ奬勵スルコト

（四）奢侈陋習ヲ打破スルニ努ムルコト

四、相互諸和シテ彼此共濟ノ實ヲ擧ケシメ以テ輕進妄作ノ憾ミナカラシムルコト

（一）防貧救濟其ノ他社會的施設ノ完備ニ努メ生活ノ安定ヲ期セシムルコト

（二）隣保相助ノ美風ヲ助長スルニ努ムルコト

（三）平素勞働者ノ教養ニ留意シ自重自制ノ精神ヲ涵養シ附和雷同ノ弊風ヲ芟除スルニ努ムルコト

（四）資本主ト勞働者地主ト小作人トノ關係ニ留意シ共濟諧和ノ實ヲ擧クルニ努ムルコト

（一）地主ハ左記事項ノ實行ニ努ムルコト

（イ）小作人ニ土地ヲ所有セシムルノ途ヲ講スルコト

（ロ）小作人子弟ノ教養ニ注意スルコト

（ハ）小作料ノ當否ニ就キ常ニ相當ノ考慮ヲナスコト

（ニ）時々所有地ヲ見廻リ耕作方法ノ適否ニ注意シ之カ改善ヲ圖ルコト

（ホ）善良ナル品種ヲ選ビ可成無償ニテ交付スルコト

（ヘ）肥料資金種付飯米等ハ無利子若ハ低利ニテ貸付ノ方法ヲ講スルコト

（ト）小作米ニハ豫メ標準等級ヲ定メ置キ納入米ノ等級ニヨリ相當ノ戻米若ハ徴米ヲナスコト

（チ）農事改良ノ奬勵ニ努ムルト共ニ小作人慰藉ノ方法講スルコト

（二）資本主ハ左記事項ノ實行ニ努ムルコト

（イ）共濟組合ノ新設若ハ其ノ發達ヲ圖ルコト

（ロ）共濟組合其ノ他勞働者ニ關スル事項ニ就テハ勞働者ヲシテ其ノ決定ニ參加セシムルコト

（ハ）共濟組合ニ對シ補助金ヲ與フルコト

（ニ）職工ヲシテ其ノ工場ノ經營ニ參加セシムルノ途ヲ開クコト

（ホ）勞働者ニ對シ日用品ヲ實費若ハ廉價ニ配給スルコト

（ヘ）勞働者ノ爲メ可成浴場ヲ設備スルコト

（ト）時々講演會慰安會等ヲ開催スルコト

（チ）勞働者住宅ノ改善ヲ圖リ進テハ其ノ所有權ヲ與フルノ道ヲ開クコト

（リ）勞働者ノ健康ニ注意シ一般衛生竝危害防止ノ設備ヲ完成スルコト

（ヌ）幼兒保育所ヲ設クルコト

五、勤儉力行ノ美風ヲ作興シ生産ノ資金ヲ增殖シテ生活ノ安定ヲ期セシムルコト

（一）健康增進ノ方法ヲ講シ能率ノ向上ヲ圖ルニ努ムルコト

（二）勤儉貯蓄ノ奬勵ニ努ムルコト

（三）衣食住ノ改善ヲ圖リ簡易生活ヲ奬ムルコト

（四）飲酒喫煙ヲ節スルノ風ヲ奬ムルコト

以上ハ内務大臣訓令ノ五大要綱ニ基キ本縣下ニ於テ特ニ施設スヘキ要目ヲ列擧セルモノニシテ地方ノ狀況ニ依リ適切ナル具體案ヲ定メ地方當局者、教育、思想、道德、宗教其ノ他社會風教ニ關係アル者及諸團體ハ互ニ意思ヲ疏通シ協力一致之カ必行ヲ期スルモノトス

◎庶務

□大正八年度前期縣稅戸數割と同附加稅納稅狀況

本年度前期縣稅戸數割は別表の如く大正七年度前期に於ては郡内二十七ヶ町村中完納せるもの十五ヶ村なりしが本年度前期に於ては完納せるもの二十二ヶ村、滯納者を有するもの僅に五ヶ町村にして其の數三十八人卽ち前年度に比し百二十八人を減せり殊に萩町の如き滯納者著しく減退せるのみならず現住者にして滯納するもの皆無なりしは大に其の努力を多とし誠に喜ぶべきことなるも本期新に椿郷東分村（所在不明）及（小川村怠慢）に滯納者を出せしは甚だ遺憾とする所なり又大正八年度戸數割附加稅を四期に分ち徵收するものは十八ヶ村其の第一期卽ち五月納期に屬する滯納者は三ヶ村にして九人なり今之れを前年度五月納期に比較するときは滯納者五十八人を減し十八ヶ村中十五ヶ村は克く完納の實績を表はせり之れを要するに前述の如く本郡に於ける納稅狀況は町村當局の督勵と町村民の自覺とに依り近時著しく改善の實績を擧くるに至りたるは慶祝に堪へざる所なるも本郡の宿望たる完納郡となすには尙格段の周到なる注意と熱烈なる努力を切望して止まざる所なり。

大正八年度前期縣稅戶數割納稅狀況

大正八年度前期（四期徵收五月納期）戶數割附加稅納稅狀況　△減

町村名	大正八年度前期滯納人員	大正七年度前期滯納人員	前年ニ比シ增減
萩	二三	一二二	△九九
椿郷東分	二		二
山田		七	△七
篠生	五	九	△四
生雲		一一	△一一
德佐	五	二	三
吉部		一	△一
福川		一	△一
紫福		五	△五
大井		三	△三
福賀		二	△二
須佐		一	△一
彌富		二	△二
小川	三		三
計	三八	一六六	△一二八

町村名	大正八年度前期滯納人員	大正七年度前期滯納人員	前年ニ比シ增減	大正八年度滯納事由
山田				
三見				
明木				
生雲				
地福				
德佐		四一	△四一	
嘉年		二	三	怠慢
高俣				
吉部	一	一		所在不明
福川		一	△一	
紫福		五	△五	
大井		三	△三	
福賀		四	△四	
須佐		三	△三	
彌富		三	△三	
小川	三		三	怠慢
田万崎				
見島				
計	九	六三	△五四	

◎學事

□學事視察報告

本郡に於ては毎年一回小學校教員を以て學事視察團を組織し縣外の學事狀況を視察せしめ來りしが本年も去る四月二十八日より十日間を以て之れを擧行せり今其報告中參考となるべき所を拔萃すれば次の如し

一、視察團員職氏名

郡視學　東　久治

明倫校長　谷井礒太郎　佐々並校長　溝部求治
紫福校長　須子五郎　龜山校長　山内貞助
高俣校長　白井次郎　宇田校長　金子茂人
白水校長　三上純象　越ヶ濱校長　大谷榮槌
三見校長　神代兼次　立野校長　一來虎一
大島校長　國弘禮輔　下小川校長　齋藤熊之進

二、日程

四月二十八日　（小郡驛石田旅館集合午後四時四十六分發乘車大畠驛下車　宿泊）
四月二十九日　（午前五時大畠發乘船三津濱上陸正午松山着午後教育品展覽會及共進會視察一泊）
四月三十日　（午前七時發温泉郡余土小學校及伊豫郡岡田小學校視察午後共進會視察一泊）
五月一日　（午前六時發高濱發汽船正午今治着午後越智郡日吉小學校及今治紡績會社視察一泊）
五月二日　（午前六時發日本ラミー會社及伊豫織紡會社參觀十時乘船香川縣三豐郡觀音寺上陸宿泊）
五月三日　（午前七時發觀音寺小學校仝郡立實科高等女學校及仝郡柞田小學校視察琴平着宿泊）
五月四日　（午前七時出發琴平神社參拜仝町都村有爲堂視察高松着午後香川郡潟元小學校視察高松市宿泊）
五月五日　午前七時大川郡長尾小學校視察
五月六日　岡山市着同縣主催共進會視察後解散
五月七日　任意沿道學校視察

三、學事視察概覽

▼愛媛縣温泉郡余土村

本村は優良村として夙に内務省より表彰せられしもの從て小學校補習學校青年團等の施設亦大に見るべきものあり而して其の施設の一般を擧ぐるに當り第一に忘るべからざるは本村をして斯く優良村たらしめし恩人盲天外氏其人あり依て先づ同氏の略歷を掲げ後ち施設

に移らんとす

愛媛縣温泉郡余土村

森　恒太郎

元治元年八月十三日生

盲天外氏ハ少壯ニシテ愛媛縣會議員トナリ夙ニ政界ニ活動スル所アリ其ノ後病ノ爲メ明ヲ失ヒタルモ氣力毫モ衰ヘズ心眼益々明カニ一意公共ノタメニ盡瘁ス卽チ明治三十一年居村余土村長ト爲ルヤ專心村治ニ努メ失明ノ身ヲ以テ能ク吏員ヲ指導シ拮据經營ノ改善ニ努力セリ此ノ間九年十ケ月遂ニ明治卅四年余土村是ヲ建テ其ノ實行ヲ後年ニ期セリ村是ノ項目ハ十六項ニシテ其ノ後同氏ハ村長ノ職ヲ退キタルモ後任歷代村長ハ其ノ項目ノ實行ニ努メ就中成績ノ優秀ト認ムルモノハ産業組合ノ活動ニ由ル動儉貯蓄肥料共同購入、青年會ノ活動ニ由ル青年教育、風俗矯正、耕地整理ノ完了ニ由ル土地改良等之レナリ。綠肥栽培及普通農事ノ改良ハ同村ノ特色ニシテ他ノ範ト爲ス處蓋シ其ノ端ヲ是等項目ノ實行ニ發ス大正二年本縣ニ於テ余土村ノ治績ヲ表彰スルニ至リタルハ全ク村是實行ノ結果ニ外ナラス而シテ同氏ハ明治四十年十二月病ヲ以テ退職シ療養ノ傍ラ著述ニ從事シ上梓ノモノ一粒米町村是調査指針等數種ニ達ス是等世ニ裨益スル處多大ナリ。又病氣快復ノ後ハ身ヲ挺シテ地方改良ノ事業ニ投シ各地ヲ巡講シテ其ノ足跡殆ンド全國ニ洽シ會々鄕里ナル温泉郡ニ於テ町村是調査ノ擧アルニ際シ之レガ委囑ヲ受ケテ主擔トナリ日夜精勵調査ヲ進捗シ一面其ノ調査ノ結果ヲ町村ニ理解セシメ町村民ヲ訓育スル爲メ別ニ温泉郡地方研究所設立ノ必要ヲ主唱シ其ノ設置ヲ見ルヤ又之レガ主宰トナリ地方改良ノ大成ヲ期シ現ニソノ研究所長タリ。大正八年二月十一日地方改良功勞者トシテ左記ノ通リ表彰セラル。

第五三號　温泉郡余土村　森　恒太郎

肉眼盲スルモ心眼愈明カニ氣力旺盛夙夜公共ノ爲ニ盡瘁ス或ハ余土村長ト爲リ或ハ温泉郡地方研究所長ト爲リ或ハ全國ヲ巡講シ或ハ著書ヲ刊行シ多年一意地方改善ニ貢獻ス其ノ功績洵ニ顯著ナリ仍テ明治四十五年愛媛縣令第三十四號市町村治績並ニ地方改良功勞者表彰規程ニ依リ之ヲ表彰シ別紙目錄ノ物品ヲ授與ス

大正八年二月十一日

愛媛縣知事正四位勳二等　若林賚藏

▼小學校教育施設概覽

教育ノ主義

(一)訓練—教育勅語、戊申詔書ノ聖旨ヲ奉戴シ訓練要目ニ示セル諸德ヲ以テ生活ヲナサシメ以テ道德ノ基礎トナサントス

(二)教授—教則ノ要旨ニ從ヒ實力ノ養成ト自學自習及ビ常識ノ發達ニ努ム

(三)養護—清潔ヲ主トシ適度ナル鍛錬ニヨリ强健ナル身体ノ發達ニ努ム

教養ノ眼目

(一)强健ナル身体　(二)旺盛ナル元氣

(三)精確ナル知能　(四)强大ナル意志

(五)純正ナル感情

人格ト人格ノ接觸ニヨリ人格ノ基礎ヲ扶植スルニアリ

教授ノ方針

一、教則ノ要旨ニ從ヒ教材ヲ研究精選シ之レガ提供、排列ニ留意シ且ツ心力ノ練磨ニ力メ學年ノ進ムニ從ヒ、自學自習ノ習慣ヲ養成センコトヲ務ム

一、教授ハ其ノ形式ヨリモ効果ニ重キヲ置キ常ニ訓練、養護ト調和一致ヲ保ツヤウ注意ス

教授上ノ要務

(一)教授細目—加除訂正ヲ要スルトキハ校長ノ同意ヲ得テ其ノ都度之レヲ行フ

(二)學習細案—每週金曜日學年打合ヲナシ教授ノ効果及ビ進度並ニ訓練事項ニ付キ次週ノ豫定ヲ作製シ校長之レヲ檢閱ス

(三)教授案—每日放課後最モ適切ニ立案シ校長之レヲ檢閱ス

(四)準備事項—教材ノ研究、教具ノ準備、教室ノ整理整頓ヲナス

(五)成績考査—平素ノ成績ヲ考査シテ教授ノ徹底ヲ圖リ且ツ參案シテ成績ヲ判定ス。學校長亦時々之レヲ行フ

教授

(一)校外教授—兒童ヲシテ自然界ヲ觀察セシメ平素學習セル知識ヲ確實ニシ見聞ヲ博メ趣味ヲ養ヒ躰力ヲ練ルヲ以テ目的トス

(二)學藝會—每學期之レヲ行ヒ各學科ノ向上進步ヲ圖ル

(三)學校園—博物材料ヲ供給シテ教授上ノ便利ヲ圖リ校内ノ風致ヲ添ヘ兒童ノ趣味ト勤勞ノ習慣ヲ養フ

(四)休業課題—各教科ヲ秩序的ニ復習ヲナサシム

ルヤウ學年適當ノ復習帳ヲ作製シ之レヲ課シ後檢閲ヲナシ展覽會ヲ行ヒ縱覽セシメ批評褒賞ヲナス

(五)成績品家庭廻覽―各學級ニ於テ定期及ヒ臨時之ヲ行フ

(六)學年末成績品蒐集―各兒童成績ノ進度ヲ見ルル

(七)學用品―實用ヲ主トシ經費ノ節約ニ注意シ成ルベク自ラ作リ自ラ繕ハシメ國產品ヲ使用セシム

(八)掲示板―兒童ノ常識養成及一般的訓練ノ一助トス

訓練ノ方針

(一)教育ニ關スル勅語―戊申詔書ノ聖旨ヲ奉戴シ兒童ノ道德ヲ涵養シ、家庭、學校ノ生活ノ間ニ之レヲ實行セシメ學年ノ進ムニ從ヒ作法ノ實習ニ依リ社會生活ノ基礎タラシム

(二)兒童實行要目―正直ニシテ勤勉ナレヨ。規律正シク自治ニ力メヨ

訓練ノ要

(一)訓練ノ實行―職員協力範ヲ以テ訓練ノ指導實踐ヲ圖ル

(二)作法ノ實習―作法ノ實習ニヨリ禮法ニ慣レシム

(三)訓練簿―甲號ニハ日常ノ訓練事項ヲ各兒童ニツキ記載シ乙號ニハ學年末之レヲ總括シテ記載シ訓練資料トナス

訓練ノ上ノ施設

(一)朝の會―一同敬禮月、金(校長訓話)水(職員ノ話)火、木、土(學藝會)後体操ヲ行フ

(二)特別全校協同訓練―禮儀―敬禮ト詞遣、全力ヲ盡ス―清潔ト整頓

(三)記念講話―學校長之レヲ行ヒ國民精神ヲ養フ

(四)儀式―正心誠意最モ嚴肅ニ擧行シ聖旨ノ貫徹ニ努ム

(五)貯金勤勉節約ノ習性ニ馴致セシム

(六)作業―忠實、自治、共同ノ精神ヲ養フ

(七)兒童役場―自治ニ慣レシムル目的ヲ以テ校内ニ兒童役場ヲ設ク

(八)貯金ノ集金―高學年生ヲシテ組合ノ貯金ヲ集金セシム

(九)公德箱―公德心養成ノタメ之レヲ設ケ硝子等ノ破片ヲ之レニ投入セシム

(十)害虫ノ驅除―蝨虫、卵塊、母蟻ノ驅除ヲナサシム

施設

(十一)動物愛護―益虫保護ノ目的ヲ以テ捕虫ヲ禁ズ

(十二)級長―各學級ニ之レヲ任命シ自治ノ奬勵

(十三)通學團―各部落ニ團長ヲ任命シ兒童自治精神ノ養成及出席ノ奬勵校外取締ヲナサシム

(十四)弔慰訪問―兒童相互間及師弟間ニ於ケル吉凶禍福慶弔ノ訪問ノ實行

(十五)賞罰―學業篤志、操行善良、体育注意皆勤、精勤ノモノハ學年末之レヲ褒賞シ奇特ノ善行者ハ隨時之レヲ表彰シ不良ノ行爲アルモノハ訓誡譴責ス

体育方針

(一)身体各部ノ均齊ナル發育ヲ期シ適當ナル鍛錬ヲ主トシ以テ活社會ノ奮闘ニ堪フベキ强健端正ナル身体及快活、剛毅ノ氣象協同和樂ノ情ヲ養フニアリ

要務

(一)身体檢査―定期、臨時身体檢査ヲ行フ

(二)傳染病―トラホーム其他傳染病ノ豫防撲滅ヲ期ス

(三)種痘―第二期種痘ヲ行フ

養護ノ上ノ施設

(一)衞生掛圖―常ニ正シキ姿勢着座書寫ノ場合ハ衞生掛圖ニ準ヲ矯正ス

(二)遠足登山―氣宇ヲ快活ニシ身心ヲ鍛錬シ兼テ知德ノ修養ニ資ス

(三)大運動會―毎年秋季擧行

(四)應急手當―救急手藥品ノ備付

(五)手巾、鼻紙―各自ニ携帶セシメ時々洗濯セシム。貸借ヲ嚴禁ス

(六)沸湯供給―夏季之レヲ行フ

(七)大清潔法―毎月一回之レヲ行フ

(八)手洗―常ニ手ヲ洗ハシメ殊ニ食事前ハ必ズ手ヲ洗ハシム

管理及ビ

一、學校長ハ校務ヲ整理シ職員ヲ統督ス

一、教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ併セテ所屬事務ヲ分掌ス

一、行事豫定―毎日行事表、週行事表、月行事表、學年暦ヲ作ル

一、職員會―毎週木曜日ニ定期開催ス

一、研究教授―毎月一回之レヲ行フ

研究

一、教材研究、毎週金曜日之レヲ行フ
一、讀書會—新刊書籍、雜誌、中央新聞ノ購讀ヲナス
一、他校參觀、職員交代他校ノ參觀ヲナス
一、研究發表—毎月一回輪番二名ヅヽ之レヲ行フ

職員信條

一、本校職員ハ衣、食、住ヲ質素簡易ニシ質素剛健ノ氣風ヲ養フベシ
二、本校職員ハ知識ノ豐富ト趣味ノ高尚トヲ圖リ穩健圓滿ナル性格ヲ養フニ注意スベシ
三、本校職員ハ禮讓ヲ重ンジ協同的、調和的ナルベシ
四、本校職員ハ家ニ在リテハ一家ノ儀範タリ、公人トシテハ献身犧牲ノ誠ヲ輸スベシ
五、本校職員ハ兒童ニ責ムル前ニ先ヅ自ラ責メヨ

家庭

(一)通知簿—學業、出席、身体等ノ狀況ヲ通知シ又父兄ヨリノ通信ヲ受ク
(二)教員ノ部落在住—校下ニ在住ノ教員ハ青年指導、補習教育ヲ擔任シ當該部落ノ教化ノ中心トナリ社會教育ヲナス
(三)父兄ノ參觀—別ニ定ムル父兄參觀規程ニヨリ年二回以上學校ノ參觀ヲナス
(四)懇談會—毎年一回以上之レヲ行フ
(五)家庭訪問—受持教員及ビ學校長ハ必要ニ應ジテ訪問ヲナス
(六)父兄招集—卒業スベキ兒童ノ將來ノ方針ニ關シ打合ヲ要スル場合、其他必要ノ際招集ヲナス學藝會、運動會、式日等ノ參列

家庭社會ノ連絡

青年會ト補習教育ノ連絡

一、校下ヲ一團トセル青年會ヲ組織シ三支部ニ分チ村長區長有志者ト共ニ本校職員之レガ指導訓練ノ任ニ當リヨク我國体ヲ辨ヘ忠孝ノ大義ヲ體シ知德ヲ涵養シ身體ヲ鍛錬セシメ以テ健全ナル公民善良ナル國民タルノ素養ヲ得シメンコトヲ努ム
一、青年會員ハ補習教育ヲ受クルノ義務アルモノトシ夜學ニ出席セシム

卒業生女會

同窓會—師弟並ニ相互ノ情誼ヲ温メ發奮ニ資ス

處女會

一、校下ヲ一團トセル余土村處女會ヲ設ケ本校職員之レガ指導ノ任ニ膺リ其ノ知德ヲ向上シ健康ヲ增進シ良妻賢母タル修養ヲ積マシム

▼兒童役場實施規程

第一條　高學年兒童ヲシテ民政自治ノ組織及ヒ活動狀態ヲ知ラシムルガ爲メ實習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

第二條　尋常科第五學年以上ノ男子ヲ以テ自治公民ト假定シ尋常科第五六學年ノ兒童ヲ二級公民トナシ高等科第一二學年兒童ヲ以テ一級公民トナス

第三條　本規程ノ目的ヲ達スルタメ左事業ヲ實習セシム
一、兒童村會議員ノ選擧
二、村長ノ選擧　三、收入役助役ノ推選
四、書記ノ選定　五、兒童役場ノ開始

事務

授業料ノ徵收　願屆書類ノ受理調査
村統計ノ資料蒐集
六、講話會ノ開催
村勢講話會、村是講話會
七、村會開催
余土村豫算ノ指示、學校條令ノ議決
遠足運動會ノ實施法
其他自治ニ屬スル事件ノ議決

第四條　授業料ノ徵收ハ毎月二十日兒童村長ヨリ納附者ニ通告シテ二十五日ヨリ月末迄ニ收入役ニ納附セシメ收入役ハ徵收濟ノ上授業料送金簿ニ要件ヲ記入シ村役場收入役ニ送金スルモノトス

第五條　村會議員選擧會ハ毎年四月中旬之レヲ施行ス

第六條　村會議員ノ選擧ヲ終リタル時ハ之レヲ掲示シ同時ニ村長ノ選擧助役收入役ノ推選書記ノ選任ヲナサシム

第七條　村會議員選擧實習前尋常科第五學年以上ノ男子ヲ集合シテ左ノ諸件ヲ教授ス
公民ノ資格權利　選擧者ノ心得
名譽職權利義務　選擧階級ノ區別
自治機關ノ成立組織

第八條　願屆書類ハ學校ニテ教授シタル成績ヲ兒童役場ニ提出セシメ毎月廿日兒童役場ヲ開場セシメ村長以下吏員之レヲ調査シ誤謬ハ之レヲ正シテ本人ニ返付ス

第九條　兒童村會ハ毎年二月七月ノ兩月及臨時ニ開催セシメ左ノ事業ヲ爲ス
二月開催　本村歲入歲出ノ豫算ノ指示
七月開催　休業中ニ於ケル作業ノ議決ヲ爲ス

臨時開催　臨時ニ起リシ事件ノ議決

第十條　村會開催ノ場合ニハ指導者ヨリ問題ヲ指示スルモノトス

但シ議員中ヨリ問題ヲ提出スル場合ハ之ヲ採用ス

第十一條　講話會開催ノ際ハ學校長、村長、其他ノ人ニ依頼シテ民政自治村勢等ニ就キテ講話ヲナス此ノ場合ニハ兒童村長主催者トナリテ之レヲ開催ス

第十二條　村會開催ノ場合ニハ指導者ハ村會ノ職務權限ノ概要ヲ講話ス

▼青年會事業概覽

一、明治三十二年ノ時村長森恒太郎氏村內青年三十五名ヲ選拔シテ青年實習會ナルモノヲ設立シ農事ノ實習ヲナシ爾來五ケ年間農事改良ノ主導者トナリ農業ノ模範ヲ示シ青年風紀ノ振張ニ努力シタリシガ日露ノ役起リテ一時中止スルノ止ムナキニ至レリ

二、日露平和克復スルヤ時ノ村長森恒太郎氏大ニ見ル處アリ國威ノ發展ト共ニ將來最モ注意スベキハ青年教育ヲ以テ須要ノ事トナシ有志ニ說キテ青年會組織ノ必要ヲ唱導シテ村內青年十五歲以上卅五歲以下ノ者ヲ以テ余土村青年會ヲ創立セリ會場ハ舊殿藏卽チ當時ノ學校跡ヲ以テ之ニ充テ日露戰役記念學堂ト名ケリ

三、目的タルヤ戰役ノ記念タルハ勿論一般青年ノ人格ヲ向上セシメ村內共ノ陋習ヲ一掃シ風俗ヲ善美ナラシメ以テ會員相互ノ親密ヲ謀リ共同一致ノ精神ヲ涵養シ公事公益ヲ圖ルニアリ

四、爾來青年ハ此ノ學堂ニ於テ森恒太郎氏ノ訓練ヲ受ケ同氏ノ村長ノ職ヲ辭スルヤ二神俊平氏及村小學校訓導伏見辰三郎氏ニ依ツテ教訓セラレタリ

五、當時ハ會員二一二、賛助會員四、特別會員三一

沿革概況

沿革

設會堂

一、余戶支部
日露戰役記念學堂
參拾九坪　外ニ住宅拾坪五合

二、市坪支部學堂
八坪　外ニ教員住宅六坪

三、保免支部學堂
八坪七合五勺　外ニ住宅六坪

備維持方法

維持ハ大字ノ補助及寄附、實習地所得、會員勤勞ノ報酬等ヲ以テ辨ズ

會員及役員

會員

正會員　百八十四名
內　二十歲以下　一三五
　　三十歲以下　四九
賛助會員　五七
名譽會員　五

役員

會長　一　副會長　一
幹事　六　支部長　三

本會ノ事業

一、講習會
毎年二回　農事短期講習會ヲ開催ス

二、義士會、乃木會、軍事記念會ソノ他臨時講話會開催

三、補習教育及壯丁教育
各支部ニ於テ學堂ニ集合教育ヲ受ク

四、通俗文庫
各支部ノ事業ニ任ズ現在余戶支部ニ在リ明治卅五年設置ス

五、巡廻文庫
本部ノ事業ニシテ箱三個ニ納本シ三支部學堂ニ巡送シ青年ヲシテ閱讀セシム

六、壯丁教育
其年入營兵士ニ軍隊勅諭ノ讀方意義並ニ算術メートル法ヲ授ク

七、農業實習會
支部任意ノ事業トシテ目下實施セルハ余戶支部ニテ四段一畝十二歩アリ
作業者ハ品行、方正、農事篤志者十五名ヲ選拔シテ之レニ當ラシム

八、視察旅行
各支部ヨリ選拔シテ他縣ノ農事等ヲ視察セシム

九、共同公益ノ精神修養
1、水防、火防ノ場合ハ奮進之レガ防遏ニ力メ公事ニ一身ヲ賭シ共同一致シテ自村ノ危險ヲ救濟スルニ勉メツヽアリ
2、里道ノ修補ヲナシ行路ノ破壞ヽ缺損ヲ生シテ往來ニ難キガ如キコト無キヲ期ス

一〇、體育
登山會、運動會、柔道等ヲナス

一一、善行日誌青年手帳、善行ノ奬勵ヲナス
一二、害虫驅除ノ督勵

表彰

一、明治四十三年三月十二日
農事改良、實業奬勵、風紀ノ改善、種子ノ交換
鹽水選、苗代ノ改良、害虫驅除豫防、施肥ノ改良
右成績顯著ニ付金五圓贈與
愛媛縣　温泉郡長

二、明治四十二年三月十一日
農事改良、風紀改善、公益事業知德修養
右成績顯著ニ付金參拾圓贈呈
愛媛縣教育協會温泉部會長

三、大正元年十二月十一日
農村風紀ノ改良、農事改良ノ奬勵及實行、農業教育ノ奬勵及實行
右成績顯著ニ付キ表彰
大日本農會

四、明治四十二年三月十一日
右成績優良ニ付キ金五拾圓贈與
余土村青年文庫

青年教綱

愛媛教育協會温泉部會長

一、皇室ヲ敬ヒ祖先ヲ尊フベシ
是レ忠道ノ大本孝道ノ大義ナリ
二、隣保相助ケテ地方協同ノ實益ヲ修ムベシ、是レ人生自然ノ要求ニシテ自治體ノ理想實現ナリ
三、權利ヲ尊重シ義務ヲ嚴守スベシ、是レ立憲國民ノ要道ナリ
四、禮節ヲ重ズベシ、禮信アリ節義アリ　信義ヲ重ズル所以ナリ
五、質素勤勉以テ產ヲ治ムベシ、是レ國ヲ興シ國ヲ富マシムル所以ナリ

其他本村施設事業中主要なるものを擧ぐれば共同苗代共同移植共同灌漑產業組合等にして何れも好成績を得居ると如何に村民一般共同精神に富めるかを見るに足る（以下次號）

◎產業

□見島避難港修築

本郡見島に避難港修築の事は既に十數年來の懸案にして漁業の發達を促進する上に極めて緊切なる關係を有するを以て斯界の議に上ること屢々なりと雖も、天の時未だ至らず荏苒今日に及ぶ。然るに時運の趨勢は漁船を大にし加之補助機關をさへ利用するに至り漁場は益々擴張を要し遂に未開の見島沖合に開拓の手を伸さざるべからざるの狀態に進み其の必要に迫らるゝこと一層切なるものあり。即ち昨大正七年以來俄に其聲を高くし關係地方縣會議員並に斯界當事者の陳情に或は請願に其の手段を盡す處となれり、本郡亦意見書を以て之が速成方を其筋に具申したりしが更に去る六月十日大津郡仙崎町に阿武大津豐浦三郡の漁業組合聯合會役員會を開催し、關係郡長縣會議員並に恰も會計檢査巡回中の縣參事會員列席其筋より土木水產の兩技師の臨席を求め本問題に關し凝議の結果六名の實行委員をして縣當局に陳情せしむる事に決し翌十一日は防長丸に便乘見島に渡航し築港適地の實地踏査を行ひたり。本問題も漸く其機熟し其の現實の日の將に近きにあらひとす誠に慶賀すべきことなり。

◎兵事

□徵兵檢査

本年度本郡の徵兵檢査は豫定の通五月十四日より同二十一日に亘り施行せられ同二十三日抽籤を了す其の成績は別表の通にして概ね良好の成績を得たり而して本年壯丁の宿舍及檢査場に於ける又學力試驗場に於て志氣態度極めて良好なりしは誠に喜ぶべき現象にして青年團設立の賜なりと信ず抽籤終了後体格又は學力優良なりし左記村青年團に對し表彰式を擧行し左記表彰狀を交付せり

（徵兵檢査成績表外表參考資料ニ在リ）

阿武郡椿村青年團

本年徵兵檢査施行ニ當リ壯丁ノ体格優秀にして受檢壯丁二十二名中甲種合格十八名ヲ算シ甲乙合格步合實ニ九五％五の最高位を占メ且學業ノ成績佳良ニシテ本郡青年團中拔群ノ成績ヲ得タリ仍ニ茲ニ之ヲ表彰ス

大正八年五月二十三日

山口縣阿武郡長從六位勳六等　岡村勇二

賞狀

各通
- 第一位　阿武郡佐々並村青年團
- 第二位　阿武郡高俣村青年團
- 第二位　阿武郡明木村青年團

本年徴兵檢査施行ニ當リ其ノ團員受檢壯丁學力試驗實施ノ結果郡内青年團中一二三位ノ成績ヲ得タリ今後尚一層ノ奮勵ヲ望ム

大正八年五月二十三日

山口縣阿武郡長從六位勳六等　岡村勇二

□海軍簡閲點呼

大正八年六月十三日本郡郡會議事堂に於て海軍簡閲點呼を執行せらる當日點呼執行官其の他左の如し

▼點呼執行官

海軍少佐　小林省三郎

隨員

海軍上等筆記　山本春作

海軍一等兵曹　板谷彌吉

海軍一等筆記　山崎彌助

▼參會者人員

六十八名

▼參會者に説示せられたる事項

一、本年三月艦内編制令制定せられたる結果（軍醫科員）主計員を以て一箇分隊を編制し（軍醫官分隊長）主計官分隊長を置くことゝなれり既に本年四月より實行しつゝあり

二、艦隊經費の件本年三月達號を以て第一、第二、及第三艦隊所屬艦船經費の仕拂は全部海軍省經理局の所掌となり各經理部要港部に分任官吏を置き所管の如何を問はず同分任官吏より所要經費の受込をなすことを得至極便利なる方法になれり

三、離現役手當新設

一、本年四月より下士卒左の各號の一に該る者に給す免除恩給賑恤金又は給助金を受くるものには支給せず

（イ）卒現役中死亡したるとき

（ロ）下士卒自己の重大なる過失に因るに非ずして業務上傷痍を受け又は疾病に罹り之が爲現役を離れたるとき

（ハ）下士卒六年以上服役し現役を離れたるとき

二、離現役手當表

區別	六年以上	八年以上	十年以上
下士	七十圓	七十五圓	八十圓
卒	六十五圓	七十圓	七十五圓

▼在鄉軍人に注意せられたる事項

一、從來現役中特修兵たりし者現役滿期となるときは同時に特修兵の資格消滅したりしも引續き特修兵として取扱はるゝことに昨年二月改正せられたり

一、兵籍異動に關する諸屆は遲滯なく本籍地市町村（點呼參會屆は寄留地）を經由すへき規程なるにも不拘本人より直接人事部へ送付するものあり又寄留地點呼參會屆出の者にして兵籍上の寄留屆（即ち人事部長宛の屆）を提出せずして單に寄留地點呼參會屆をなすものありて人事部の兵籍簿と對照するに符合せず此等は一々符箋返却等の手數を要するを以て各自注意を要す

一、分家婿養子緣組等の屆出には分家養家先の全家族の名生年月日の記入が必要にして又妻入籍屆に妻の生年月日の記入を要するに此等の要件を具備せざるもの最も多く此等は特に各自に於て注意を要す

一、點呼免除願出のものにして町村長又は船長證明書を添付すべきを添付せざるものあり注意を要す

一、各自が旅行したり寄留したりして本籍地に現住しあらざる場合及轉籍したり其他戸籍上異動事項は其都度相當の屆出をなさざるべからざるの規定なるも此等の手續を怠るもの多し此等は即ち召集條令報告條令の違犯者である召集令改正に伴ひ罰則も重くなれり各自注意して處罰せらるゝことなきを期すべし

一、功六級勳七等以下の勳章及記章褒賞は時宜に依り紋付羽織袴着用の節衣服の左肋に之を佩用することを妨げざることに本年二月八日内閣告示第一號を以て令達せられたり

□軍隊慰問

本郡にては五月五日郡長各町村長と共に山口屯在部隊在營者慰問の爲出發同日兵營々庭に各町村別に在營者を集め慰問の辭を述べたる上先般第二艦隊寄港の記念繪葉書一組宛を贈り同日午後七時より營庭の一隅にて艦隊寄港に關する活動寫眞を觀覽に供し以て慰藉す觀覽者は郡出身者の外在營軍人及將校、同家族地方の貴紳等ありて其の數約千八百名なりし慰問人員左の如し

歩兵第四十二聯隊在營者町村別人員表

町村名	人員	町村名	人員
萩	五四	吉部	七
椿郷東分	三二	福川	二〇
椿	九	紫福	一〇
山田	一三	大井	一三
三見	一四	奈古	九
明木	一七	宇田郷	八
佐々並	一八	福賀	四
川上	一二	須佐	一一
篠生	七	彌富	一一
生雲	一一	小川	七
地福	九	田万崎	一二
德佐	一四	六島	一五
嘉年	三	見島	八
高俣	五	合計	三五三

備考　本表人員中ニハ山口營戍病院服役中ノモノ六名包含ス

□第二艦隊來萩活動寫眞狀況

實物教育の目的を以て田中陸軍中將を始め在京有力者斡旋援助に依り山屋司令長官の統率せらる第二艦隊の主力榛名、比叡、霧島の三艦は去る四月十五日拂曉山の如き雄姿を萩灣頭に現はし三日間に亘り萩附近の人士を熱狂せしめたる快事は實に空前の壯擧にして本郡に於ける海事思想普及發達の上に多大の効果ありし事は一般の認むる所たり是に於て第二艦隊の來萩を機とし廣く海事思想を皷吹し海軍將校生徒一般海軍兵の志願を旺盛ならしめ艦隊來航の壯擧をして最も有意義たらしむべく軍艦碇泊中の壯觀及司令長官一行を始め乘組將士の行動其他勇壯なる當時の光景を活動寫眞に撮影し艦隊出港後郡内各町村に之を巡回映寫するを最良の方法なりとし曩に歡迎準備委員上京の際天然活動寫眞株式會社に交渉を遂げ賀田社長の厚意に基き其の協定成り軍艦來萩に際し同會社撮影部より岡部技士出張して專ら撮影の任に膺り非常なる苦心と努力とに依り其の實況を三千五百呎のフィルムに收め軍艦出發の翌日同氏之を携へて歸京し旬日を經て現像を了へ海軍省の檢閲を得更に同會社映寫部より陶山、山田の兩技士來萩し四月廿九日萩町を先登に順次各町村を巡回映寫したるが映畫の順序左の如し

第一卷

一、艦隊入港前日月下に於ける萩町の夜景
一、雨中の黑煙
一、艦隊入港投錨
一、田中陸相以下各種團体代表者艦隊訪問
一、旗艦榛名艦上の山屋長官と中川參謀長
一、同艦上の當直士官平井大尉
一、艦載の汽艇に牽かれて行く拜觀者
一、萩中學校生徒激浪中の拜觀
一、旗艦榛名より比叡、霧島を望む
一、霧島艦上の訪問者と勝木艦長
一、菊ヶ濱棧橋附近の群衆
一、水兵の上陸
一、山屋長官の上陸
一、第一講演場明倫小學校講堂
一、第二講演場萩中學校と記念植樹
一、第三講演場郡立實科高等女學校と記念樹
一、明倫小學校庭に於ける海軍音樂隊の演奏

第二卷

一、志都岐神社—山屋長官、中川知事、勝木艦長の參拜
一、松陰神社、山屋長官參拜、松下村塾と米搗臺
一、山屋長官一行越ヶ濱の清遊—田中陸相、山屋長官、各艦長の魚釣り
一、探照燈

第三卷

一、霧島艦上の行動—軍艦旗の揭揚、今戰準備、十四吋砲と飛行機射擊砲の操縱、負傷兵の收容、ローヤード網の切斷と其の修理
一、霧島艦上の勝木艦長と黑田副長
一、山屋長官の歸艦と棧橋附近の光景
一、驅逐艦濱風、磯風、天津風の入港
一、艦隊の出發と萩港の壯觀—抜錨(五分前)旗艦榛名と標的艦隊の出發、汽艇防長丸甲板上見送りの人々、一抹の黑煙を殘して

萩町在住山口縣武學養成所評議員竹内陸軍中佐は始終一行に加はりて陸海軍將校生徒及海軍兵の志願奬勵を力說し金子郡書記映畫說明の任に膺り熱心懇篤至らざるなく郡内一般に深甚なる感動を與へたり其間日數二十九日映寫すること三十六回なり而して萩、椿、山田、田万崎の各町村及須佐村の夜間と山口兵營に於ける映寫は電氣を下士休憩所と愛國婦人會員の活動

使用せしも其の他各村に於ては總て瓦斯を使用せり熟練なる曙技士の操縦により毎回映畫最も鮮明にして悉く印象深き實況なるが故に到る處多大の感興を以て迎へられたり今回活動寫眞の開催は海軍思想の皷吹に徹底的の効果最も確實たりしものあるを信ず殊に巡回映寫に當り開催地町村役場に於ては小學校と協力斡旋盡力し多大の便宜を與へられたるは感謝に堪へざるなり今開催日時、場所及觀覽人員を掲くれば左の如し

活動寫眞開催日、場所、觀覽人員調

開催月日	開催場所	觀覽人員 小學校兒童	觀覽人員 一般	觀覽人員 計	備考
四月廿九日	萩町	三、〇〇〇人	一、三〇〇人	三、三〇〇人	晝夜二回開催會場壽座
同 三十日	同	一、三〇〇	二、五〇〇	三、八〇〇	朝晝夜三回開催會場同
五月 一日	三見村	三〇〇	四〇〇	七〇〇	會場小學校内
同 二日	川上村	三〇〇	四〇〇	七〇〇	同
同 五日	山口兵營		一、七〇〇	一、七〇〇	軍隊慰問ノ爲開催會場
同 六日	篠生村	二〇〇	五五〇	七五〇	營庭會場小學校屋内
同 七日	生雲村	五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	會場小學校屋内
同 八日	地福村	二九〇	一、〇〇〇	一、二九〇	同
同 九日	德佐村	五〇〇	八〇〇	一、三〇〇	同
同 十日	嘉年村	二〇〇	六五〇	八五〇	同
五月十一日	高俣村	二〇	五三〇	六五〇	會場小學校屋内
同 十二日	吉部村	三五〇	七五〇	一、一〇〇	同
同 十三日	福賀村	三五〇	九五〇	一、三〇〇	同
同 十四日	彌富村	二七〇	一、〇三〇	一、三〇〇	同
同 十五日	小川村	五〇〇	一、〇五〇	一、五五〇	同
同 十六日	田万崎村	七〇〇	二、八〇〇	三、五〇〇	會場小學校庭
同 十七日	須佐村	八〇〇	一、七〇〇	二、五〇〇	晝夜二回開催會場座
同 十八日	宇田郷村 大字宇田 關村 大字惣郷	三〇〇	九五〇	一、二五〇	會場小學校屋内
		一〇〇	四〇〇	五〇〇	晝開催會場同
同 十九日	奈古村	六〇〇	二、三〇〇	二、九〇〇	會場小學校庭
同 二十日	大井村	五五〇	二、〇〇〇	二、五五〇	同
同 廿一日	椿東村	一、一〇〇	一、五〇〇	二、六〇〇	晝夜二回開催會場壽座
		四五〇	八〇〇	一、二五〇	朝晝夜三回開催會場壽座
同 廿二日	椿村 山田村	七〇〇	一、三〇〇	二、〇〇〇	同
同 廿三日	福川村	六〇〇	一、八〇〇	二、四〇〇	會場小學校庭
同 廿四日	紫福村	五〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	同
同 廿五日	大島村 大島大島	二〇〇	六〇〇	八〇〇	同
同 廿六日	見島村	四〇〇	一、六〇〇	二、〇〇〇	同
同 廿八日	椿東村 字越ヶ濱	四五〇	一、五五〇	二、〇〇〇	同
同 廿九日	明木村	四三〇	六五〇	一、〇八〇	會場公會堂
同 三十日	佐々並村	二〇〇	八五〇	一、〇五〇	會場小學校屋外
計		一五、二六〇	三六、八一〇	五二、〇七〇	

◎辭令

給五級俸（六月十六日）　阿武郡技手　藤井二郎

依願免本官（六月二十日）　阿武郡技手　藤井二郎

月俸貳拾圓給與　阿武郡農業技手　藤井二郎

依願本職ヲ免ス（六月廿日）　阿武郡技手　福田茂穂

勸業係長ヲ命ス　池田秀夫

任山口縣阿武郡書記（六月十六日）

給月俸拾六圓

庶務係勤務ヲ命ス（六月十六日）　阿武郡書記　池田秀夫

月俸參拾七圓給與（五月十九日）　阿武郡建築吏員　澄川藤藏

朝鮮總督府出向ヲ命ス（同五月廿一日）　同　澄川藤藏

御用濟ニ付職ヲ解ク（同五月廿六日）　同　澄川藤藏

□町村吏員異動

大正八年五月廿二日就職	福川村	阿武孝一	新任
同年六月十九日就職	福川村助役	金子孟一	同
同年六月十九日就職	須佐村助役	增野修三	同
同年六月廿日就職	高俣村助役	櫛部顯介	同
同年六月十日就職	福川村收入役	柴田吉熊	同

□實科高等女學校教員新任

山口縣阿武郡立實科高等女學校教諭ニ任ス（五月二十二日）　上田チヨ

十級俸給與

□商業學校教員異動

萩町立萩商業學校教諭ニ任ス（六月三日）　坂田重

五級俸給與　萩町立萩商業學校教諭ニ任ス（六月三日）　月野藤吉

六級俸給與　公立實業學校教諭　德永四郎

願ニ依リ本職ヲ免ス（六月五日）

□小學校醫異動

阿武郡川上尋常高等小學校阿武郡立野尋常小學校

阿武郡野戸呂尋常小學校阿武郡高瀨尋常小學校醫　伊藤隆亮

囑託ヲ解ク（五月廿一日）　增野純亮

阿武郡紫福尋常高等小學校醫ヲ囑託ス（五月廿一日）　小野八十二

田万崎村立多磨農業補習學校醫ヲ囑託ス（六月九日）

新任ノ部

新任月日	校名	職名	俸給	氏名
五月十五日	明倫	訓導	九、下	春田カナメ
五月廿七日	嘉年	同	十、下	田中大助
五月十七日	越ヶ濱	准訓導（心得）	月俸十二圓	神代ナツ

退職ノ部

退職月日	校名	職名	氏名
五月廿九日	德佐	訓導	內山龍之祐
同	見島	同	大塚サメ
同		准訓導	大塚音熊

增俸ノ部

增俸月日	校名	職名	增俸	氏名
五月廿九日	德佐	訓導	八、下	內山龍之祐
五月廿一日	明倫	同	六、上	柳田文亮
同	同	同	六、下	城市春太郎
同			六、下	長屋幾右衞門

同	同	同	七、上	三宅三郎	
同	同	同	七、下	藤井正輔	
同	同	同	七、下	山縣貞一	
同	同	同	八、上	宮原道廣	
同	同	同	八、上	原實亮	
同	同	同	八、上	上利祥介	
同	同	同	八、下	齋藤實	
同	同	同	九、上	宇佐川ヨネ	
同	同	同	九、上	久保キヨ	
同	同	同	九、下	金子清一	
同	同	同	十、上	林サダコ	
同	同	同		守田フサ	
同	同	同		中津江田鶴子	
同	同	同		野上キヨ	
同	同	同		香川喜代子	
同	同	同	十一、下	濱村耕介	
同	同	同	八、上	尾川ミツ	
同	同	同		田淵ヨシ	
同	同	准訓導	四、下	萩原芳子	
同	同	准訓導心得	月俸十四圓	高田盛穗	
同	同	同	月俸十三圓	河野千世	
同	同	同		久保アヤコ	
同	同	同	月俸十一圓	信國顯治	
同	椿東	訓導兼校長	四、上	堀田斷藏	
同	同	訓導	六、上	金子清太郎	
同	同	同	七、下	宗實宗一	
同	同	同	八、上	盧見與平登	
同	同	同	八、下	江村隆雄	
同	同	同	同	三村久米一	
同	同	同	九、上	田村賢造	
同	同	同	九、下	阿部ツチ	
同	同	同	十、上	玉井ハナ	
同	同	同	十、下	白井壽男	
同	同	同	十一、上	福壽キミ	
同	同	准訓導	四、上	小島經彥	
同	同	准訓導心得	月俸拾壹圓	白井チカ	
同	越ヶ濱	訓導兼校長	七、上	大谷榮槌	
同	同	訓導	八、下	大田勇一	
同	同	准訓導	六、上	松本二郎	
同	同	同	月俸十一圓	小島まつ子	
同	椿西	訓導兼校長	五、下	大和春三	
同	同	訓導	八、上	白神伸男	

增俸月日	校名	職名	增俸	氏名
同	椿西	訓導	十、上	堀江ヤエコ
同	同	同	七、下	井上ハツ
同	白水	准訓導心得兼校長	月俸十一圓 六、下	小野サキ
同	同	訓導	八、上	三上純象
同	同	同	八、下	中島善太郎
同	同	同	十、上	藤井說藏
同	同	同	七、上	寺田チヨ子
同	同	准訓導心得	月俸十四圓	大和サダ
同	同	同	同	佐伯敏助
同	木間	同	月俸十二圓	松本早知
同	同	同	同	椿嘉子
同	三見	訓導兼校長	六、上	山本松江
同	同	訓導	七、下	神代兼次
同	同	同	八、下	武安明
同	同	同	十、上	堀豐藏
同	同	同	六、下	寺山豐次
同	同	同	六、下	井町スミ
同	三見	准訓導心得	月俸十一圓 六、下	村田ダケコ
同	明木	訓導兼校長	六、下	山下マス 檜垣九市

增俸月日	校名	職名	增俸	氏名
同	同	訓導	八、下	吉屋金熊
同	同	同	九、上	光永卓爾
同	同	同	十、上	落合ウメ
同	同	同	十、下	久保ヒサコ
同	佐々並	訓導兼校長	六、下	溝部求治
同	同	訓導	八、上	木橋安宣
同	同	同	八、下	林壽喜
同	同	同	八、下	佐々木藏一
同	同	同	九、上	佐村巖
同	同	同	十、上	椿龜槌
同	同	同	十一、上	岡村ヒデ
同	長高	同	八、上	高松フヂ
同	同	准訓導心得	月俸十圓	矢田部美子
同	川上	訓導	八、下	齋藤茂八
同	同	同	同	田淵武彥
同	同	同	十、上	野村忠次
同	同	同	十、下	重松幸江
同	立野	訓導兼校長	七、下	一來虎一
同	同	准訓導心得	月俸十圓	新庄貞子
同	高瀨	訓導	九、下	澄川龜市
同	同	同	十、上	張ツコ

同	野戸呂	准訓導心得	月俸十二圓	柴崎フジ
同	篠生	訓導兼校長	六、下	長敬輔
同	同	訓導	八、下	山內繁明
同	同	准訓導	四、上	永見寅章
同	篠目	訓導	九、上	松永サツキ
同	同	准訓導	五、上	橘正
同	生雲	訓導兼校長	六、上	朝枝忠治
同	同	訓導	九、下	藏貫ツル
同	地福	訓導兼校長	六、下	渡邊榮人
同	同	訓導	八、下	石田義雄
同	佐德	訓導兼校長	六、上	河村要一
同	同	准訓導	六、上	山本ナツ
同	同	准訓導心得	月俸十圓	福江喜代子
同	龜山	訓導	七、下	藤井チエ
同	同	同	八、上	田中千代一
同	同	同	九、上	佐伯茂市
同	同	同	八、上	阿座上チセ
同	同	准訓導心得	月俸十五圓	佐伯節生
同	同	同	月俸十三圓	長峰義章
同	嘉年	訓導	五、上	中村二郎
同	同	同	十、上	坂本治郎

五月廿一日	嘉年	准訓導心得	六、下	山根清信
同	高俣	訓導	七、上	山縣良正
同	同	同	九、下	上野マス
同	吉部	同	八、上	岡博文
同	同	同	九、上	久津內シゲ
同	同	同	十、上	種子信二郎
同	同	同	十、下	藤山德一
同	同	同	七、上	三輪トシ
同	福川	同	八、上	安田龍助
同	同	同	八、下	山中光一
同	同	同	九、上	伊藤正雄
同	同	同	十、上	多田義正
同	同	同	十一、上	安田モミヨ
同	同	同	八、下	中島スエ
同	同	准訓導	六、上	村上壯一
同	福川	同	六、下	岡タカ
同	同	准訓導心得	月俸六圓	齋藤ハナ
同	半田	同	五、上	藤原文一
同	同	同	五、上	山縣ヒデ
同	紫福	訓導	十、下	岡棄熊
同	同	同	九、下	中村ノブ

增俸月日	校名	職名	增俸	氏名
同	紫福	准訓導	四、下	服部百介
同	同	同	六、上	安田哲男
同	大井	訓導兼校長	六、上	弘津一久
同	同	訓導	八、下	增原武夫
同	同	同	八、下	桑原茂政
同	同	准訓導	六、上	佐伯吉備三
同	同	同	五、上	櫻井僊英
同	奈古	訓導兼校長	六、上	安藤孫一
同	同	訓導	八、上	茂刈正義
同	同	同	八、下	坂本礒次
同	同	同	十、上	野稻唯一
同	同	同	十、上	福場了一
同	同	同	十一、上	澄川アイ
同	同	准訓導	四、上	小野フエ
同	同	同	六、下	長山智員
同	宇田	訓導	七、下	古川禎三
同	同	同	八、下	佐々木フヂコ
同	同	准訓導	六、下	岡崎重雄
同	福田	訓導	八、上	淺原文三郎
同	同	准訓導	五、上	上村義英

同	福田	准訓導心得	月俸十圓	山縣トメコ
同	彌富	同	六、下	神野常萬
同	同	訓導	八、下	鈴川勝治
同	同	同	八、上	岩佐サチ
同	同	同	五、上	青原賴一
同	鈴野川	准訓導心得	月俸十二圓	奥川イチ子
同	育英	訓導兼校長	五、下	井町常三郎
同	同	訓導	七、下	佐々木榮熊
同	同	同	七、下	仁保内藏槌
同	同	同	八、上	谷本新一
同	同	同	八、下	石川駒市
同	同	同	九、上	内山ヨシ
同	同	同	十、下	井上八尋
同	同	准訓導心得	月俸十圓	緒方俶
同	小川	同	八、下	山中藤吉
同	同	同	九、上	尾坂喜與子
同	上小川	同	九、上	淺野悌一
同	同	准訓導	五、下	豊田俊雄
同	同	訓導兼校長	八、上	齋藤熊之進
同	下小川	訓導	十、上	井上文男

同	多磨	訓導	八、上	藤中寅藏
同	同	同	八、下	木藤スエ
同	同	同	九、上	尾坂美之
同	同	同	九、上	三浦アサ
同	同	准訓導	四、上	堀野益雄
同	同	同	四、下	東貫一
同	同	同	四、下	板井川五一
同	同	同	六、上	高津マツ
同	大島	訓導兼校長	六、下	國弘禮輔

同	同	訓導	八、上	山崎正介
同	同	同	十一、上	廣石鐵多
同	同	同	十一、上	笹井寫
同	同	同	八、上	國弘松子
同	相島	准訓導	五、下	中村ハル
同	同	見島准訓導心得	月俸十九圓	河内壽之助
同	同	同	月俸十六圓	田中太郎
同	同	同	月俸十六圓	山谷永一

女子と小人とは養ひ難し。

君子は和して同せず小人は同して和せず。

瓜田に履を入れず李下に冠を正さず。

祝佗の佞ありて宋朝の美あらずんば難いかな今の世に免れんこと。

大丈夫事を行ふ當に磊々落々日月の皎然たるが如くあるべし。

君子は爭ふ所なし。

道は至正明白にして知り易く行ひ易し。
誠實に優れる知慧はなし。
知らざるを知らずとせよこれ知れるなり。
士は以て弘毅ならざるべからず任重くして道遠し。
貴くして賤しきに下れば衆憎まず。
鄉に入つては鄉に從へ
君子は道を憂へて貧を憂へず。
身體髮膚これを父母に受く敢て毀傷せざるは孝の始めなり。
身を立て道を行ひ名を後世に揚げて父母を顯すは孝の終りなり。
親を愛するものは敢て人を惡まず親を敬する者は敢へて人に慢らず。
男女室に入るは人の大倫なり。
富は屋を潤し德は身を潤す心廣くして體胖かなり。
笑ふ門には福來る。
柔と剛と人の道を立つ。
女と馬鹿とは他人の罪を恕さず。

參考資料

目次

一、町村立小學校兒童出席歩合表
二、徴兵檢査成績表
三、身長体重町村別前年比較表
四、阿武郡受檢壯丁中体格優良者表

一、町村立小學校尋常科兒童出席歩合表

五月分

學校名	順位 男	順位 女	順位 計	順位 本月	順位 前月
椿西	九九、一七	九九、一八	九九、一八	一	一
立野	九八、七六	九九、二四	九八、九八	二	七
高瀬	九八、四八	九九、〇六	九八、七八	三	二
宇田	九八、二二	九九、〇〇	九八、六一	四	五
佐々並	九八、四七	九八、六五	九八、五七	五	一二
嘉年	九八、四五	九八、一五	九八、三〇	六	一六
明木	九八、四七	九八、〇三	九八、二五	七	四
半田	九八、三二	九八、一五	九八、二五	八	一九
木間	九八、七五	九七、五七	九八、〇六	九	六
持坂	九七、六一	九八、二九	九七、九二	一〇	三
福川	九七、八五	九七、七八	九七、八二	一一	八
下小川	九七、九五	九七、四七	九七、七一	一二	一二 九
篠目	九七、〇七	九八、二三	九七、六一	一三	一四
龜山	九八、二一	九六、八八	九七、五九	一四	一五
小川	九七、八〇	九七、二三	九七、五二	一五	一六
大井	九七、二八	九七、六八	九七、四九	一六	二六
越ヶ濱	九七、一二	九七、六四	九七、三八	一七	一一
多磨	九七、五四	九七、一一	九七、三四	一八	一三

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
三見	九五、〇九	九九、〇一	九七、二六	一九	三四
上小川	九七、二三	九六、六〇	九六、九八	二〇	二〇
明倫	九七、一七	九五、六三	九六、四三	二一	二三
川上	九六、四二	九六、二七	九六、三五	二二	一七
紫福	九六、八〇	九五、八五	九六、三一	二三	一〇
篠生	九五、八六	九七、五六	九六、一二	二四	二七
野戸呂	九七、三六	九四、五八	九六、〇一	二五	二一
育英	九五、五三	九六、七一	九五、九六	二六	二九
大島	九七、五四	九四、三六	九五、八四	二七	二八
長高	九四、二四	九八、三〇	九五、七二	二八	二四
椿東	九五、〇九	九五、八九	九五、四八	二九	一八
白水	九五、八一	九四、四二	九五、二二	三〇	三七
奈古	九五、五五	九三、四二	九四、五〇	三一	三三
地福	九三、九六	九四、八〇	九四、四六	三二	三二
德佐	九五、七〇	九三、二八	九四、四五	三三	三六
福田	九二、八三	九六、二二	九四、四二	三四	二五
彌冨	九四、八七	九三、七四	九四、三七	三五	三五
見島	九五、六八	九二、六七	九四、二三	三六	四一
藏目喜	九一、三九	九二、九七	九二、一一	三七	三八
吉部	九四、三〇	八八、六九	九一、三八	三八	三九

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
高俣	九四、六九	八五、七四	九〇、六四	三九	三一
生雲	九一、一九	八八、〇四	八九、五九	四〇	四〇
鈴野川	八二、九三	九一、四二	八七、〇六	四一	四二
相島	九一、六五	八〇、五九	八六、六一	四二	三〇
本月郡平均	九六、〇六	九五、五三	九五、七八	—	—
前月郡平均	九六、二七	九五、六九	九六、一四	—	—

一、町村立小學校高等科兒童出席歩合表

五月分

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
嘉年	九九、七〇	九九、一九	九九、五七	一	三
明木	九九、五五	九九、五二	九九、五四	二	二
宇田	九九、三三	九九、〇四	九九、二二	三	一〇
佐々並	九九、一一	九八、七九	九九、〇〇	四	一九
地福	九八、七二	九八、五二	九八、六五	五	一五
椿西	九八、五四	九八、六五	九八、五九	六	一
小川	九九、四〇	九六、八四	九八、三七	七	一一
多磨	九八、六五	九六、〇〇	九八、一〇	八	二三
篠生	九八、〇八	九八、〇〇	九八、〇四	九	一六
育英	九七、二一	九八、六二	九七、七八	一〇	一七
白水	九八、〇二	九七、四四	九七、六八	一一	六

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
三見	九七、〇七	九八、五五	九七、五五	一二	一八
紫福	九六、九一	九八、六七	九七、五三	一三	四
大井	九七、〇六	九八、三八	九七、三九	一四	五
吉部	九六、七一	九七、七一	九七、〇七	一五	二四
德佐	九五、八四	九八、一三	九六、六七	一六	八
川上	九五、七九	九八、〇六	九九、四八	一七	九
椿東	九七、二七	九五、九〇	九六、四五	一八	七
彌富	九五、五二	九八、六七	九六、三五	一九	一四
高俣	九六、〇〇	九六、〇〇	九六、〇〇	二〇	二二
明倫	九三、九三	九七、八三	九五、八七	二一	二二
奈古	九三、六三	九八、六二	九五、七六	二二	一三
生雲	九五、五二	九四、五五	九五、二二	二三	二一
福田	九四、一三	九六、三八	九四、七七	二四	二〇
福川	九三、九〇	九二、七〇	九三、三三	二五	二七
見島	八七、四四	九八、〇八	八八、六八	二六	二六
大島	八九、二七	八〇、〇〇	八六、九一	二七	二六
本月郡平均	九六、三八	九六、九九	九六、五四	—	—
前月郡平均	九七、一三	九六、九〇	九七、一〇	—	—

二、徵兵檢査成績表

町村名	受檢人員	合格者 甲種	合格者 第一乙種	合格者 第二乙種	受檢人員ニ對スル甲種%	受檢人員ニ對スル甲乙合格%	花柳病 人員	花柳病 %	トラホーム 人員	トラホーム %
萩	一二七	四〇	七	六二	三一、三九	八五、四	二	一、四	一	〇、七
椿郷東分	九四	三三	四	四九	三三、三三	八九、三	二	二、二	三	三、三
椿	二三	一八	—	一三	八一、八二	九五、五	—	—	一	一、一
山田	二九	一五	七	一五	三八、四七	九四、八	—	—	一	一、一
三見	五二	一九	六	一五	三六、五三	七六、八	—	—	—	—
明木	一九	五	四	三	二七、三一	六三、二	—	—	—	—
佐々並	三〇	一五	—	二	五〇、〇〇	八六、六	—	—	—	—
川上	三三	一七	二	六	五一、五一	七五、七	—	—	—	—
篠生	三三	一七	三	五	五九、〇九	九五、五	—	—	—	—
生雲	四七	一七	三	三	三六、一七	七八、七	—	—	—	—
地福	二七	一四	三	八	五一、八五	七二、六	—	—	一	一
德佐	五五	一六	八	一九	二九、〇九	七八、二	一	一、八	二	二、二
嘉年	三	九	一	一	七五、〇〇	九一、六	—	—	—	—
高俣	二四	二二	六	九	八、三三	七〇、八	—	四、二	—	—
吉部	三三	二三	三	三	五四、五四	八一、八	一	五、五	一	—
福川	四三	二	九	一〇	二五、五八	六九、七	—	—	—	—
紫福	二六	一七	七	二	二六、九二	六一、六	三	二、五	三	二、五
大井	四五	三	一	一五	四八、八八	八四、四	一	二、二	一	二、二

奈古	四一	一七	二	八	四一、四六	八七、八	|	|	三	七、三
宇田郷	二三	一三	一三	三	六四、五四	八一、八	|	|	一	四、六
福賀	二七	一三	|	七	四四、四五	七〇、三	|	|	一	三、七
須佐	六四	二五	一七	一三	三九、〇六	七〇、三	二	三、二	一	一、六
彌富	三四	一一	六	八	三三、三五	七三、五	一	二、九	二	五、八
小川	三八	一四	七	九	三六、八四	七八、九	一	二、七	四	一〇、五
田万崎	三八	一四	六	一〇	三六、八四	七六、九	|	|	二	五、三
六島	二四	一一	七	三	四五、八〇	八七、五	|	|	一	四、一
見島	三四	一五	八	五	四四、一二	八二、三	|	|	九	二六、五
計	一、〇六二	四一四	一三四	三一三	三八、九八	八一、〇	一五	一、四	四五	四、二
備考										

三、身長體重前年比較表

町村名	受檢人員	大正七年平均身長	大正八年平均身長	大正七年平均体重	大正八年平均体重
萩	一二七	五、二九	五、三一	一三、九六三	一三、九二八
椿郷東分	九四	五、二五	五、二八	一四、五九六	一四、二四八
椿	二二	五、三二	五、二九	一四、六六六	一四、三九二
山田	三九	五、二四	五、二八	一四、二三七	一四、三一二
三見	五二	五、二〇	五、三〇	一四、三五八	一三、九四七
明木	一九	五、二二	五、二四	一四、四三五	一三、九四〇
佐々並	三〇	五、一七	五、二六	一三、五三〇	一四、一六九
川上	三三	五、一六	五、二四	一三、九八四	一三、八九二
篠生	三二	五、二八	五、二七	一三、九二七	一四、〇六〇
生雲	四七	五、二〇	五、二三	一三、七八〇	一三、九〇四
地福	二七	五、二〇	五、二八	一三、六八五	一四、〇三〇
徳佐	五五	五、一九	五、二二	一三、七八七	一三、〇三〇
嘉年	一二	五、一八	五、二四	一三、五三九	一四、〇〇〇
高俣	二四	五、一九	五、一六	一三、二七六	一三、四三〇
吉部	二二	五、一九	五、二〇	一三、八〇〇	一三、八三三
福川	四三	五、二六	五、二一	一四、一四一	一三、六七四
紫福	二六	五、二二	五、一七	一三、九九〇	一三、三七四
大井	四五	五、二五	五、三一	一四、九八九	一四、六五三
奈古	四一	五、二一	五、一八	一三、六八八	一三、四七七
宇田郷	二三	五、一六	五、二六	一三、四一三	一三、九二七
福賀	二七	五、一七	五、一八	一三、五六〇	一三、二六五
須佐	六四	五、一七	五、一八	一三、八三五	一三、七七〇
彌富	三四	五、二三	五、二一	一四、〇三三	一三、四五三
小川	三八	五、一八	五、一八	一三、三五四	一三、五四五
田万崎	三八	五、一七	五、二一	一三、六五〇	一三、七二〇

町村名	受檢人員	大正七年平均身長	大正八年平均身長	大正七年平均體重	大正八年平均體重
六島	二四	五、三二	五、二九	一五、四二七	一五、一八五
見島	三四	五、一八	五、二四	一三、七六〇	一四、四八八
合計	一〇、六二	五、二二	五、二六	一三、九〇八	一三、七二三

四、阿武郡受檢壯丁中体格優良者表

町村名	氏名	兵種	身長	体重	胸圍
萩	弘中竹松	兵	五、四九	一八、〇三〇	三、〇四
椿郷東分	吉賀蓑一	關兵	五、六七	一七、八五〇	三、〇三
椿	山崎豐	兵	五、七四	一九、八〇〇	三、〇三
山田	石川秀吉	兵	五、四三	一六、一〇〇	三、〇五
三見	野村瀧平	兵	五、四一	一七、八三〇	三、二六
明木	山根梅雄	兵	五、三七	一五、七〇〇	三、〇四
佐々並	佐伯芳男	兵	五、四三	一六、七〇〇	三、〇〇
川上	山根右一	兵	五、五〇	一八、二三〇	三、一五
篠生	川原芳輔	兵	五、五一	一五、二八〇	二、七九
生雲	弘中恒雄	兵	五、五七	一七、二二〇	三、〇〇
地福	内山武人	兵	五、七二	一六、六三〇	二、九八
徳佐	板垣安熊	兵	五、五四	一七、九〇〇	三、〇三
嘉年	山根武臣	兵	五、四一	一五、四〇〇	二、七六
高俣	大田春治	兵	五、三七	一七、五二〇	三、一〇
吉部	山本作一	兵	五、四七	一五、二二〇	二、八五
福川	田村市松	兵	五、三九	一六、五三〇	二、九〇
紫福	金子國正	兵	五、四一	一六、〇〇〇	二、九三
大井	中原瀧藏	兵	五、七〇	一六、〇九〇	三、〇四
奈古	米原五郎右衛門	兵	五、五四	一七、二八〇	三、〇六
宇田郷	茂刈俊雄	兵	五、三八	一六、三八〇	二、九六
福賀	倉增忠義	兵	五、四三	一五、三〇〇	二、八〇
須佐	尾崎邦雄	兵	五、三八	一六、三〇〇	三、〇二
彌富	佐々木秀一	兵	五、五五	一五、二一〇	二、七九
小川	小河松吉	兵	五、四八	一四、七六〇	二、八一
田万	須子豐吉	兵	五、四二	一三、五三〇	二、八〇
六島	井町榮太郎	兵	五、四七	一五、九一〇	二、八八
見島	黒田龜松	兵	五、五二	一四、七〇〇	二、八五

富貴に素しては富貴に行ひ貧賤に素にしては貧賤に行ふ。
過ぎたるは猶ほ及ばざるが如し。
自ら恃め。

陽氣の發する所金石亦透る精神一到何事か成らざらん。

大山は土壤を讓らず。

十目の視る所十指の指す所それ嚴なるかな。

尺蠖の屈するは伸びんが爲めなり。

大なる事業には大なる準備を要す。

螢雪の功を積む。

己れ自身と上帝とを信ずるを最上の策とす。

片口聞いて理をつけな。

影を捕へて物を失ふ。

人事を盡して天命を待つ。

急がば廻れ。

諦めは心の養生。

能ある鷹は爪を隱す。

堪忍は無事長久の基怒りは敵と思へ。

金剛石も鷄の爲めには大麥に如かず。

阿武郡報第三十五號　大正八年六月十五日發行　◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可　◎毎月一回十五日發行　一部代價金拾錢